

デザイン塾：第一部「Mモデル・Mメソッドに関する講演」

平成 26 年 7 月 25 日(金)、慶應義塾大学矢上キャンパス新 34 棟デザインセンター（平成 26 年 1 月竣工）を会場として、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会（DTM）の 2014 年度活動：「デザイン塾：デザイン科学、タイムアクシスデザインの創験」が開催されました。本活動は、デザイン塾とDTMによる主催、第2支部、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会の共催により行われました。本塾は、「Mモデル・Mメソッドに関する講演」（第1部）と「タイムアクシスデザイン・価値成長デザインに関する講演」（第2部）の2部構成で開催されました。

第1部においては、はじめに、慶應義塾大学の佐藤浩一郎助教より、細分化・専門化されたデザインの統合のためのデザイン科学について説明が行われました。また、デザイン統合の要となる多空間デザインモデル（Mモデル）やそれを応用したデザイン方法であるMメソッドの説明もなされました。さらに、デザイン科学に基づく「成長型」の『デザイン科学事典』の紹介もなされました。つぎに、DTM主査の松岡より、10年の節目となるデザイン塾の軌跡や本塾における創験（創造の実験的試行と兆し）に関する概要の説明がなされました。つづいて、南条装備工業株式会社の森幸雄氏より、自動車加飾内装部品の評価分析と今後の開発指針についての講演がなされました。統計解析を用いて自動車の加飾内装部品の印象やイメージを分析し、その魅力を最大限に活かすための開発指針について説明がなされました。第1部においては、これらの講演に加えて、『Mメソッドハンドブック』のエディトリアルデザイン、ヘルスケアサイネージのインタラクティブシステムデザイン、およびプラスチックの新価値創発などの研究事例や作品の紹介が学生より行われました。



佐藤浩一郎の様子特任助教による講演の様子



会場の様子



森幸雄氏による講演の様子